

製鉄記念室蘭病院

血管造影装置更新／短時間で腫瘍焼く治療機

最新医療機器 相次ぎ導入

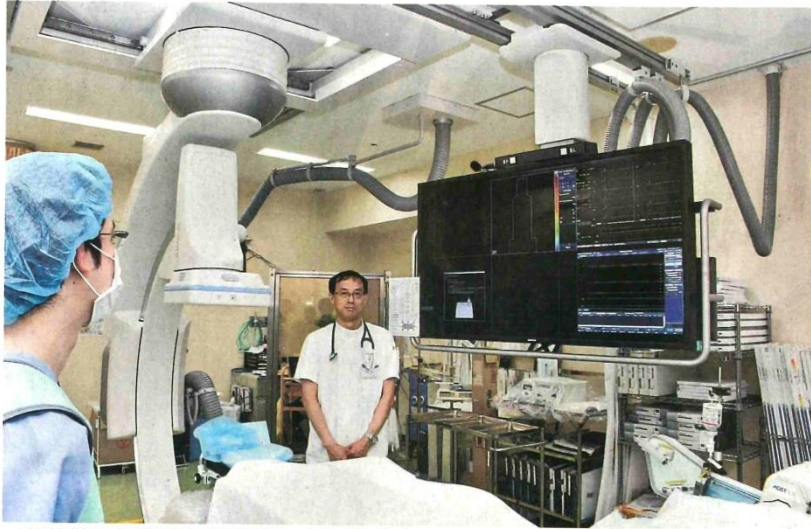
製鉄記念室蘭病院が最新の医療機器を相次いで導入している。心臓などの血管をより鮮明に表示でき、被ばく量が少ない血管造影装置や、腫瘍を短時間で焼く肝臓がんなどの治療機器で、患者の身体的な負担を減らす効果も期待できるという。また、昨年9月に導入した手術支援ロボット「ダビンチ」を3月7日から稼働させる予定だ。

(生田憲)

3月 手術支援ロボも稼働

血管造影装置は13年ぶりに更新した。アームでさまざまな角度から患者の心臓などの血管をエックス線撮影し、モニターに映す。さまざまになった血管を広げる治療「心臓カテーテル」に欠かせない機器だ。従来の機種より画像処理能力が高まり「奥までばつと見える」という。被ばく量は従来機の半分以下だ。

道内での導入は帯広協会病院に続き2例目。製鉄病院によると、昨年心臓カテーテル施術件数292件中、緊急治療は1502件中、道内最多だった。新型機種の導入で、治療時間の短縮につながるという。肝臓の腫瘍に針を刺して焼くマイクロ波凝固治療機器は、昨年11月に新たに導



さまざまな角度から撮影した画像を右のモニターに映し出す血管造影装置

入。局所麻酔だけで施術でき、時間も約10分と短く、外科手術より患者の負担が少ない。以前は周波数の低いラジオ波で同様の治療を行っていたが、腫瘍が血管の近くにあると、針が十分に温まらない課題もあった。マイクロ波は血流の影響を受けにくく、大きな腫瘍にも有効という。

行っていたが、腫瘍が血管の近くにあると、針が十分に温まらない課題もあった。マイクロ波は血流の影響を受けにくく、大きな腫瘍にも有効という。

一方、ダビンチは医師が操作して手術を行うロボットで、前立腺がんや胃がん、肺がんなどの手術に活用する。医師の操作訓練などを進めており、23日に市内外の医療機関の関係者に操作方法などを説明した。前立腺がんを担当する前鼻健志主任医師は「既に導入している病院の治療例では、術後の尿漏れが非常に少なく、性能も高い」と利点を強調した。

後の尿漏れが非常に少なく、性能も高い」と利点を強調した。



ダビンチの操作を体験する医師ら

操作体験も行い、堀尾医院(登別)の堀尾昌司院長は「細かいところまでよく見える素晴らしい技術。患者さんに勧めたい」と話していた。